

1 基本項目	事務事業名	地域資源を生かしたまちづくり事業			担当部署	課名	企画政策課	
	予算事業名	地域資源を生かしたまちづくり事業				係名	地域資源推進班	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-23-1067		
	事業期間	開始年度	平成22年度	終了年度	当面継続	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標1 にぎわい、活力あるまち			算科目	款	総務費
		政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出				項	総務管理費
		施策名	9 観光の振興				目	企画費
基本事業名		9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況		導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	地域資源の一つに挙げられる北陸職業能力開発大学校と共同研究事業を進め、同校の存在と技術を市民や産業界に紹介し、地域活性化に繋げる。また、富山大学との包括的連携協定に基づき、大学の知を地域活性化に役立てる。
	対象	北陸職業能力開発大学校、富山大学、市内外住民、市内外企業
	手段 (活動指標)	北陸職業能力開発大学校との共同研究を進め、学校と地域のつながりを強化する。富山大学の地域貢献分野を活用する。
意図 (成果指標)	より広く北陸職業能力開発大学校の技術を知ってもらい、同校と民間企業の連携を深める。富山大学の知を地域活性化に役立てる。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 研究課題	件	1	2	2	2	100.0%	1
	②							
	③							
	① 北陸能開大と民間企業の共同研究	件	10	10	10	10	100.0%	10
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円	400,000	42,000	328,222			
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						1,296,000
	⑤その他	円			900,676	935,778		200,000
	支出合計(A)	円	400,000	42,000	1,228,898	935,778	2128.0%	1,496,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円			400,000	400,000		200,000
	⑤一般財源	円	400,000	42,000	828,898	535,778	1175.7%	1,296,000
	収入合計	円	400,000	42,000	1,228,898	935,778	2128.0%	1,496,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	2	2	2	3	50.0%	2
	②年間所要時間	時間	400	400	400	1,000	150.0%	400
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	1,680,000	1,680,000	1,680,000	4,200,000	150.0%	1,680,000
	総費用(A+B)	円	2,080,000	1,722,000	2,908,898	5,135,778	198.2%	3,176,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	平成23年度から取り組んでいる市民バス位置情報システムは2路線を追加し、8路線となった。現在、それらの路線のバス位置情報はHPなどで確認が可能であるが、より簡単に利用者が知ることができるよう、表示システムを新たに開発し、利用者の多い商業施設に設置した。	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	B	B	自治体関与の妥当性	1 妥当である	両校との連携は民間主導では難しい
目的の妥当性					1 妥当である	教育機関が持つ知を地域活性化に活かすことが求められている	
対象の妥当性					2 検討の余地あり	民間企業との連携に改善の余地がある	
有効性	有効性	B	B	目標達成度	2 目標どおり	実施できている	
				類似事業の有無	2 検討の余地あり	関連事業との連携により効果が高まる可能性がある	
				上位施策への貢献度	1 高い	両校との交流が活発に行われている	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	最小限の費用で最大の効果を出している	
				実施主体の適正化	1 適正である	このような調整役は民間では実施が難しい	
				負担割合の適正化	1 適正である	最低限の費用であると考え	
	1次評価 (課長総括)	B	B	事業の進め方・内容について改善の余地あり	2次評価	不要	
	後の方針 (評価結果及び今後の方針)	この事務事業では、主に北陸職業能力開発大学校との共同研究事業を中心に予算化しているが、これまでバスロケーションシステムなどが実用化に結びついており、大きな成果が得られている。大学校と市との共同研究にとどまらず、市内の企業等との連携につなげる事が望まれる。			評価結果		

1 基本項目	事務事業名	観光イベント支援事業			担当部署	課名	商工観光課	
	予算事業名	観光イベント支援事業				係名	観光係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-23-1025		
	事業期間	開始年度	昭和40年代	終了年度	当面継続	予会計	一般	
	総合計画	目標名	基本目標1 にぎわい、活力あるまち			算科目目	款	7. 商工費
		政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出				項	1. 商工費
		施策名	9 観光の振興				目	4. 観光費
基本事業名		9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況		導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	イベント開催に対し支援を行うことにより、市内外からの観光客誘致の向上を図り、市全体の活性化を目指す。	
	対象	市内を代表する各種イベント実施団体	
	手段 (活動指標)	じゃんとこい魚津祭り、戦国のろし祭り、イルミラージュUOZU、魚津の朝市、魚津漁火まつりに対し補助を実施。観光客入込数の増加を目指す。	
意図 (成果指標)	県内外からの観光客誘致		

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 補助金額	円	7,770,000	7,770,000	7,770,000	8,270,000	106.4%	4,343	
	②								
	③								
	成果指標	① イベントにおける観光客入込数（実績は観光客入込数調査票 イベントより）	人	236,000	305,816	237,000	300,628	126.8%	250,000
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円						
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円	7,770,000	7,770,000	8,270,000	8,270,000	6.4%	8,550,000
	⑤ その他	円						
	支出合計（A）	円	7,770,000	7,770,000	8,270,000	8,270,000	6.4%	8,550,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円			500,000	500,000		
	③ 地方債	円						
	④ その他（使用料、雑入等）	円						
	⑤ 一般財源	円	7,770,000	7,770,000	7,770,000	7,770,000	0.0%	8,550,000
	収入合計	円	7,770,000	7,770,000	8,270,000	8,270,000	6.4%	8,550,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	4	4	4	4	0.0%	4
	② 年間所要時間	時間	900	900	900	900	0.0%	900
	③ 人件費（②×@ 4,200円）（B）	円	3,780,000	3,780,000	3,780,000	3,780,000	0.0%	3,780,000
総費用（A+B）	円	11,550,000	11,550,000	12,050,000	12,050,000	4.3%	12,330,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	じゃんとこい魚津まつり、戦国のろし祭り、イルミラージュUOZU、魚津の朝市、漁火まつりに対し補助を実施。観光客の誘客増加を図る。	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	A	B	自治体関与の妥当性	2 検討の余地あり	過去の慣例で補助金の支出が行われている事業もある。もういちど事業内容を精査する必要がある。
目的の妥当性					1 妥当である	市内のイベントを活性化し、観光客等の獲得につなげるという目的は地域の活性化に不可欠であるため。	
対象の妥当性					2 検討の余地あり	過去の慣例で補助金の支出が行われている事業もある。もういちど事業内容を精査する必要がある。	
有効性	有効性	A	B	目標達成度	2 目標どおり	詳細な数値は出していないが、目標と比べて大幅な増減はない。	
				類似事業の有無	2 検討の余地あり	補助内容としては、地区振興の補助事業等で支出が可能なものもある。	
				上位施策への貢献度	2 普通	各イベントを目的に市外から訪れる人も多く、観光客の獲得に貢献していると考えられるため。	
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	対象団体にもよるが、費用対効果が決して高くないと考えられる事業、団体もある。	
				実施主体の適正化	2 改善の余地あり	各イベントの目的に差がある。事業の趣旨である「観光客の誘致」という目的に合致するかどうかを精査する必要がある。	
				負担割合の適正化	2 改善の余地あり	対象団体、金額について、もう一度精査する必要がある。	
	1次評価 (課長総括)	B	B	補助率及び上限額について見直す余地あり	2次評価	不要	
	後の方針 評価結果 (課題及び今)	実施団体への助言等を行いながら、イベントをより良いものとしていく。			評価結果		

1 基本項目	事務事業名	観光資源強化事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	観光資源強化事業			係名	管理係			
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-24-4100			
	事業期間	開始年度	平成26年度		終了年度	平成27年度	予会計	水族館事業特別会計	
	総合計画	目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち			算科目目	款	1. 水族館費	
		政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出				項	1. 水族館費	
		施策名	9 観光の振興				目	1. 水族館管理費	
基本事業名		9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況		導入予定なし		
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	北陸新幹線開業に合わせて、魚津水族館の魅力向上を図るとともに、首都圏からの来訪者に魅力をアピールし、魚津市への観光客誘致につなげる。
	対象	①入館者
	手段 (活動指標)	テレビ、新聞、雑誌等への広告掲載 新コーナー設置
	意図 (成果指標)	入館者数の増

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	①年間入館者数	人	150,000	187,306	150,000	144,991	96.7%	150,000	
	②								
	③								
	成果指標	①入館者の前年対比	%	106.6	133.1	100.0	77.4	77.4%	100.0
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円			600,000	168,912		
	②委託料	円			3,000,000	2,359,152		800,000
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円			5,013,000	4,222,644		1,200,000
	支出合計 (A)	円	0	0	8,613,000	6,750,708		2,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円			8,613,000	7,050,708		2,000,000
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	0	0	8,613,000	7,050,708		2,000,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人			5	4		4
	②年間所要時間	時間			1,500	1,860		1,860
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	0	0	6,300,000	7,812,000		7,812,000
総費用(A+B)	円	0	0	14,913,000	14,562,708		9,812,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○ホームページデザインリニューアル○リユウグウノツカイコーナー新設(ガチャガチャ設置)○越中緋解説コーナー新設○ブリ模型製作○ホタルイカ水槽新設○シラエビ水槽新設○魚津水族館PR番組制作○番組配信(CATV)○魚津水族館CM製作・放送(旅チャンネル)○北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅タッチパネル式広告○祝 北陸新幹線開業看板設置○北陸三水族館館合同キャンペーン	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	0	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	当館は、市で経営しているため
目的の妥当性					1 妥当である	ニーズを踏まえて行っている	
対象の妥当性					1 妥当である	魚津市の観光客誘致につながっている	
有効性	有効性	0	A	目標達成度	1 高い	入館者数に反映している	
				類似事業の有無	1 なし	水族館から情報発信し観光客の誘致に努めている。	
				上位施策への貢献度	1 高い	魚津市への観光客誘致につながっている。	
効率性	効率性	0	A	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている。	
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から情報発信し、魚津市全体の観光客の増加を図っている。	
				負担割合の適正化	1 適正である	北陸新幹線開業に合わせた期間限定の事業のため	
1次評価 (課長総括)		A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	要	部会評価
後の方針	北陸新幹線開業に合わせた事業は、平成26年度において可能なことは行ってきており、27年度も継続的に事業展開している。今後は、物品販売を兼ねたPR戦略など、新たに効率的な観光資源強化事業が必要と思われる。				評価結果	魚津市全体の今後の観光資源強化事業について	

1 基本項目	事務事業名	埋没林博物館改修事業			担当部署	課名	埋没林博物館	
	予算事業名	埋没林博物館改修事業				係名	管理係	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-22-1049		
	事業期間	開始年度	平成26年度	終了年度	平成26年度	予会計	一般会計	
	総合計画	目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち			算科目	款	教育費
		政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出				項	社会教育費
		施策名	9 観光の振興				目	埋没林博物館費
基本事業名		9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況		導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	魚津埋没林博物館の常設展示の更新、老朽化した施設設備の改修を行う	
	対象	魚津埋没林博物館の常設展示、施設設備	
	手段 (活動指標)	展示更新：プロポーザルによる業者選定、委託契約 施設改修：入札、工事請負契約(都市計画課委託)	
	意図 (成果指標)	展示及び施設設備が更新される	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度 計画	
			計画	実績	計画	実績	達成率		
活動指標	① 契約率	%			100	100	100.0%		
	②								
	③								
	成果指標	① 事業進捗率	%			100	100	100.0%	
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度 当初予算額
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	
支出内訳	① 需用費	円			648,000	648,000		
	② 委託料	円			56,499,984	56,499,984		
	③ 工事請負費	円			25,002,000	25,002,000		
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円			50,016	42,060		
	支出合計 (A)	円	0	0	82,200,000	82,192,044		0
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円			37,500,000	37,500,000		
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円			1,200,000	1,200,000		
	⑤ 一般財源	円			43,500,000	43,492,044		
	収入合計	円	0	0	82,200,000	82,192,044		0
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人			5	3		
	② 年間所要時間	時間				1,500		
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	0	0	0	6,300,000		0
総費用(A+B)	円	0	0	82,200,000	88,492,044		0	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○常設展示の更新 ○施設設備の改修	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由		
	妥当性	【選択してください】	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	社会教育施設として自治体が主体的に整備するべきものである	
目的の妥当性					1 妥当である	常設展示の更新時期、施設の老朽化、観光の振興への寄与向上への必要性等に照らし妥当である		
対象の妥当性					1 妥当である	常設展示の更新時期、施設の老朽化、観光の振興への寄与向上への必要性等に照らし妥当である		
有効性	【選択してください】	A	A	目標達成度	1 高い	計画どおり改修を完了した		
				類似事業の有無	1 なし	施設固有の課題である		
				上位施策への貢献度	1 高い	観光資源としての質的向上が図られたことで市の観光振興に寄与している		
効率性	【選択してください】	A	A	コスト効率	1 高い	限られた予算・時間の範囲内でほぼ最大限の改修を行った		
				実施主体の適正化	1 適正である	社会教育施設として市が主体的に整備するべきものである		
				負担割合の適正化	1 適正である	県補助金を活用しており適正と思われる		
1次評価 (課長総括)	【選択してください】	A	計画どおり事業を実施することが適当		2次評価	不要		
後の方針 (評価結果及び今後の方針)	計画から完了まで、極めて短期間であり、かつ予算不足の中、概ね満足できる成果が上げられた。学芸員の日頃の調査研究成果の一端を展示に取り入れることができた。				評価結果			